

2019年度の学校目標とその達成状況についての報告

立命館中学校・高等学校

立命館中学校・高等学校は、2019年度をスタートさせるにあたり、「新しい価値を創造し、未来に貢献する人を育てる」ことの学校ミッションを確認し、生徒の「自立・貢献」の精神を育むとともに、学校ミッションにつながるさまざまな挑戦の機会を提供し、生徒の成長をしっかりと支援する一年とすることを全教職員で申し合わせ、学校目標を以下のとおりまとめました。

(1) 確かな学力を育てる

- ・授業ファーストの文化を築く（学びに向かう姿勢・学習習慣の確立、目標・成果・課題の明確化）
- ・主体的・創造的な学習を追求する（新しい学力観に基づく指導、思考力を鍛える探究型学習の開発）
- ・発達段階における各重点課題（基礎学力定着の指導、サイエンス・グローバル活動を含むキャリア教育の推進、大学接続を睨んだ「課題研究」の充実）

(2) 豊かな人間性を育てる

- ・授業規律・生活習慣の確立を徹底する（遅刻ゼロ、挨拶の励行）
- ・他者への思いやりを育て自らが学校文化を創るという心を育てる（中学道德、生徒会活動等の充実）
- ・立命館で学ぶ意味・誇りをもつ（建学の精神、外に向かう姿勢の育成）

(3) 教師力を向上し、生徒の挑戦心を育てる

- ・Beyond Borders を合い言葉に、グローバルな視点で、新たな領域・学習スタイルに挑戦する。
- ・教師の率先垂範、生徒の責任ある言動という学校文化づくりを目指す。

これら3点の到達度及びその具体的な活動内容について、以下の通り報告します。

(1) 確かな学力を育てる

本校の課題として、生徒の学力差が大きいことがあげられます。中学、高校ともに高い目標を目指して自発的に学習できる生徒がいる一方で、きちんとノートがとれない、宿題をやってこない、集中力が続かないという生徒、基礎もあり、基礎的な知識・理解の個人差も大きくなる傾向があります。この課題について、到達度別講座や少人数講座、チーム・ティーチング（TT）の導入などにより、生徒個々に応じた細やかな指導ができるよう努力と工夫を重ねてきました。知識・技能の習得の重要さは言うまでもありませんが、同時に、思考力・判断力・表現力の伸長、主体的に学習に取り組む態度の向上など、学校生活や家庭学習を通じてバランス良く、また総合的な学力として高いレベルを身につけることを目指し、正課、課外のさまざまな取り組みを進めているところです。

年度当初に設けた「確かな学力を育てる」という重点課題について、授業ファーストの文化を築くこと、主体的・創造的な学習を追求することなど、各教科の授業やその他の取り組みにおいてもさまざまな活動を行いました。今年度の特徴的なものを紹介します。

国語科

基礎学力の定着を図る中学 1 年、2 年において、基本的読解力を身につけることを重視してきましたが、論理的に思考し相手に伝わるように表現する能力については成長途上です。中 1 の夏休みの「自分史の課題」については、手応えの感じられる力作が多くありました。中 2 の夏休み課題は「戦争」「震災」「仕事」のテーマから一つ選んでインタビューを行いまとめるというものでしたが、読み応えのある力作がそろいました。MSJ・AD では、文字数の多い記述に粘り強く解答する習慣がついてきました。深い学びを展開する中学 3 年、高校 1 年において、全体的に意欲的に取り組み漢字学習やノート整理がしっかりとできるようになってきました。高 1 では、語彙力の伸長のために「日本語チェック 2000 辞典」を、古典文法のための自主学習用テキスト（古典文法、漢文句法、古文単語）をそれぞれ定期考査に出題するなど定着を図っています。MSC では任意提出の添削指導や問題演習などにも取り組み実力定着を進めました。6 ヶ年のまとめ期となる高校 2 年、3 年においては、まとめること、文章を書くことを重視しました。高 2 では、新聞の社説・コラムなどの記事を要約し意見し他者に確認してもらう「新聞プリント」に取り組むとともに、「長岡京から未来へ」論文コンクール（原稿用紙 10 枚）に取り組みました。高 3 では、説明的文章の読解を通して大学の学びで必要となる概念の獲得として、どのように読解が深まったのかを表現する取り組みを行いました。

社会科

中学校ではノートを整理させることを重要視しつつ、資料を読み取る問題を設定、教科書や資料集を自然に見る習慣をつけるよう指導しています。中 2 の沖縄平和研修も視野に入れながら授業との連携を図っています。高校では、多様な科目を設けていること、またそれぞれに外部のコンテストなどに参加し力を試す取り組みをしていることが特徴です。たとえば、高 1 現代社会解析では、「環境問題や国家の財政と税制および企業経営シミュレーション (MESE)」を展開しました。日本全国大会「知の甲子園」に参加し、2018 年度に引き続き 2019 年度も全国優勝を果たした他、4 チームがベスト 8 に勝ち残るという成果をあげました。高 2 現社システムでは、「ニュース時事能力検定」を年 2 回受検とし、6 月実施の準 2 級および 9 月実施の 2 級受検に多くの合格者を輩出しました。高 2 国際比較文化研究では、世界遺産検定にチャレンジし、高 3 国際関係ゼミでは、国際関係学部の授業を実際に大学生と共に受講するなど高大連携を積極的に進めました。高 1 高 2 の授業の一環で取り組んだ JICA エッセイコンテストでは、今年度特別学校賞をいただきました。

数学科

中学 1 年、2 年時には、授業規律の確立や授業内容レベルの向上を大切に、難しい問題を自力で解くための習慣をつけさせるようと、クラスに応じて小編成講座を設け、臨機応変に学習方法や指導方法を転換するなど工夫をしました。中 3 の演習時間では教員 2 名が担当し TT の体制で授業を行いました。高 2、高 3 の CE・GL コースでは、論理的思考力を養成する上で重要な数学の力を伸ばすため、演習時間を十分確保しています。SS コースでは理系学部への進学に必要な数学力の伸長のため演習など自分の力で解く時間を多くとっています。SSG クラスでは海外で活用されている教科書「Pre-Calculus」を使用するなど国際的な場面でも通用する数学力をつけることにも取り組んでいます。MS コースでは高 2 までに高校数学の内容を終了し、校内模試や外部試験を計画的に実施するほか、朝テストなどでの基礎学力の定着も図っています。その他、中高生の有志に呼びかけ、数学オリンピックおよびジュニア数学オリンピックに出場する生徒に対して、今年度は学習会を計 10 回設け、1 月 13 日の試験では合わせて 24 名が受験しました。そのうち 1 名が厳しい数学オリンピック予選を突破し本選出場に選ばれました。

理科

今年度、教員による実践・研究発表の場が多くありました。9月日本理科教育学会全国大会、10月京都高校教育研究集会、11月子供のためのジオカーニバル（大阪市立科学館）、11月スマートカート講習会、12月物理教育学会主催高校物理基本実験講習会、1月アドバンス物理研究会などです。本校のSSH事業は今年度で18年目を迎え、最も長く指定を受けている全国4校の一つですが、理数教育のさまざまな先進的な取り組みが日常の授業の中で蓄積されてきました。中学の一部の生徒には意欲の低さがみられ、授業規律の徹底が課題となっていますが、科学現象に興味関心をもつ生徒は多く、難しい問題にも粘り強く取り組む姿勢があり、ほぼ毎時間宿題プリントを配布するなど振り返りを丁寧に行う中で少しずつ学力の定着が図れるようになってきました。高校では、専門性の高い内容になり、また各コースで異なる科目設定になりますが、たとえば、化学における数学的な計算を要するもの、地学における実社会と結びついた課題、バーチャルではない現象・反応を直接観察し発見を促すものなど、多角的、総合的な学びを重視しています。特に高3では、日常生活に関する身近な実験を多く取り入れるCE化学、地球温暖化やマイクロプラスチック問題など国際的な話題を取り上げたGLグローバルサイエンス、生徒が自ら実験を設計する力を養うSS分析化学やSS生命科学などの取り組みは本校独自のユニークな取り組みになっています。MSでは全国模試において順調な仕上がりをみせていますが、日常の学習だけでなく11月には京都大学から研究者を招き「ゲノム編集」に関する特別講義を設けるなど、大学入試段階における到達地点を意識させる取り組みも行いました。

芸術科

特徴ある取り組みとして、中学音楽では合唱コンクールを見据えた歌唱指導（中1）、ピアノ連弾のグループ学習による器楽授業（中3）、専門講師の指導による三味線演奏（中3）を行いました。高校音楽では原語で歌い親しんだ世界の歌曲、リコーダー四重奏、PCソフトウェアによる編曲作品の制作と演奏（高1・高2）、地域の幼稚園・福祉施設にて吹奏楽ボランティアの演奏（高3）などを行いました。いずれも、知的で豊かな価値観を醸成するとともに、吹奏楽ボランティアでは生徒自らの発案による計画・実践により主体的な学びの姿勢が育っています。中学美術では合唱コンクールのポスター制作（中1）、模写や木彫・虫ピンなどの制作（中2）、AA研修のお土産作り（中3）などにたいへん集中して取り組むことができています。高校美術では油彩画やスタンドグラス制作に取り組み、全体として高度な作品に仕上がっています。高校書道では古典臨書を基本に実習を通して書の伝統と文化の意味や価値を考え、表現の世界を広げています（高1・高2）。また画仙紙の大作や工芸的な内容も含む多彩な表現力を伸ばしています。

保健体育科

夏の熱中症対策、冬の長距離走における安全面など、配慮・対策を周知徹底して授業計画を立てています。中学生、高校生とも総じて運動意欲が高く、チームで協力して活動する中でリーダー層が育っていることが確認できます。苦手な長距離走においても各自の目標を目指して真面目に取り組む姿から、学年が上がるにしたがって、授業開始時に全員が揃って集合整列しスムーズに授業に入るなど、集団行動で自分がすべき役割を把握して活動できるようになっています。高3では更に豊かなスポーツライフを実践していくことを意識した姿勢を養っています。

英語科

中学では、コースによって技能の得意、不得意がありますが、生徒同士での教え合い学習の時間を作り、インプット・アウトプットを行う機会を多く持たせることで、さらなる理解に繋げる取り組みを行ってきました。教科書だけでなく、ニュース記事を読むなど、難易度を少し上げた教材も使用しました。

また、沖縄研修旅行に向けて、沖縄の文化や歴史を英語で学ぶ機会も設けました。3学期は3月に行われる World Summit の取り組みを行っていく予定です。実際の使用場面を意識した文法指導を行い、4技能統合した読解活動を進めました。また、検定教科書 One World に加えて、読み物の量を増やすための教材研究の余地があり、アウトプット活動を増やす必要があると考えています。

高校では、多様なニーズに応えられる英語力の育成を図っています。すべてのコースで4技能のバランスと国際交流等での発信力を重視し、また、TOEFL-ITP®や GTEC によって英語力の到達度を確認し個々の課題に応じた学習を進めました。CE や SS では、洋書多読やアクティビティーなど多角的に学習を組み立て、SSG では発信型の英語力の充実を目指し「英語2」や「SE (Science English)」において積極的にプレゼン力を鍛えました。GJ・GL ではこの間、WYM (World Youth Meeting)、ASEP (Asian Students Exchange Program)、関西模擬国連などの行事に意欲的に参加し、「English Discussion」「Global English」「English Immersion」などの Discussion-base の授業の取り組みの成果を発揮しています。

技術・家庭科

特徴的なこととして、中学技術では空間的な思考が苦手な生徒が多いこともあり、図法や製図に苦戦しましたが、板材加工に関しては積極的に実習に取り組みました。また手縫いとミシンを使いポーチを型染した作品を完成させ、文化祭で展示しました。時間を守る指導や片付け掃除を徹底させるなども意識させています。高校家庭科では食生活を多面的・総合的に捉え、食物分野に重点においた学習や実習を行っています。

情報科

特徴的な取り組みとして、中2では論理的に情報を捉え表現するプレゼンテーションの基礎とマイクロビットによるプログラミングを学び、中3では商品の購買意欲をどう引き出すかという観点で商品のプレゼンテーションの力を磨きました。高1では、長岡京市役所と連携して地域に喜んでもらえるリーフレットづくりを行い、高2理系情報Iではプログラミング学習の中で、生徒自身が解説し討論する時間をもちました。

読書教育

本の貸出数は例年とほぼ変わりなく、2018年度の6243冊(4月～12月)に対して、2019年度は6349冊(4月～12月)でした。保護者向け特別貸出も定着してきました。中学図書委員会は映画上映会の企画やカウンタ当番、メディアセンターの装飾などに取り組み、高校のメディア委員会は週1回のミーティングを1年間続けています。また、授業でのメディアセンターの利用も課題研究や国語表現の他、英語科や高1総合プロジェクトなど、とても高い稼働率で利用されています。また、高校では青少年読書感想文コンクールで2名が毎日新聞社京都支局長賞、図書館協議会会長賞を受賞し、全国学芸科学コンクールでも旺文社赤尾好夫記念賞の銅賞1名、入選2名、努力賞3名を受賞しました。中学では、青少年読書感想文コンクールで2名が私学で優秀賞を受賞しました。

キャリア教育

中2の職業体験(Discovery Social Project)では今年度66の事業所にご協力をいただき、中2生全員が職場体験を積むことができました。社会に貢献することの意義や職業観も芽生え、各事業者からお褒めの言葉が多く寄せられるなど、生徒は大きく成長することができました。高校では、高1生を対象に、立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)を訪問し、文系・理系の様々な学部の研究室見学と大学の先生方の話を聞く機会「アカデミックデイ」をもちました。また高1では、毎週の「総合的

学習の時間」を活用して、CSL（キャリア・サービス・ラーニング）を導入し、生徒自身に将来の自分の姿と社会貢献について体験的に考えさせる場を設けました。高校全般としては、立命館大学や APU への進学に向けて、6月に「学部紹介ウィーク」を設け、各学部の先生や OB・OGなどを招いて昼休みを中心にブース形式で各学部の説明を聞きました。高校生らは、各学部の取り組みや資格取得、インターンシップや留学制度、卒業後の進路などについて自由に質問し、とても有意義であったとの生徒の感想が寄せられました。高2生には、本校の保護者や本校卒業の社会人らをキャリアアドバイザーとして迎え、11名の講師による「キャリアガイダンス社会人講座」を設けました。夏休みには、高3生は校長または副校長との個人面談にて将来の進路の決意などを語る機会があり、また進路学部の最終決定に向けて立命館大学のオープンキャンパスに参加しました。高大連携という点では、高3の選択講座として国際関係学部や理工学部、経営学部などにおいて、大学入学後に単位が認められる Advanced Placement 科目を履修した生徒が延べ54名いました。

立命館大学や APU への学内推薦制度をもっている総合学園ですが、近年は MS コースに加えてその他のコースからも立命館以外の大学や海外大学へ進学する生徒が増えています。SSH 事業をはじめとする多様な国際交流を展開する中で、広い可能性を探るようになったことや、高校での研究活動や留学経験やコンテスト等での評価が他大学の推薦入試や AO 入試に活かされることなどがその要因と考えます。同時に、立命館大学や APU の各学部に進学した本校卒業生の追跡調査においても、大学での英語力や GPA（大学での評定平均）の向上が見られます。

（2）豊かな人間性を育てる

立命館中学校・高等学校では、「時を守り、場を整え、礼を尽くす」という基本的な生活習慣を身につけるとともに、集団の中で自らを律することのできる生き方を身につけることを大切にしています。学力の充実という点においても、人としての器の大きさを広げ、思いやりや相互支援の心でともに学び、磨き合う仲間をもつことがとても大切であると考えています。今年度は特に挨拶をしっかりすることを重視しました。中学生徒会、高校生徒会は、ともにクラブや委員会を巻き込んで挨拶運動を展開し、教員も声かけをすすんでするよう心がけました。約1年の根気強い取り組みの中で、少しずつ自然体で挨拶ができるようになり、教員に対してだけでなく交通指導員さんへの挨拶もできるようになってきました。しかし、周囲が見えていない生徒もいて、自ら元気に発声することが当たり前前の雰囲気までには至らず、粘り強く改善に努めていきます。

登下校のマナーについては、地域や電車利用の方々から苦情やお叱りを受けることが今なお続いています。通学路を広がって歩くこと、駅構内や電車の乗降で周囲への配慮が足りないこと、優先席を占領すること、注意を受けても素直に謝れないことなど、集団になったときにわがままや配慮に欠ける言動が出がちです。通学路では交通指導員に加え、朝夕に教員が交代で指導にあたり、HR や道徳などの時間に繰り返し注意を入れ、生徒総会などで登下校マナーをテーマにした議論を行ってきたことで、2列内歩行の徹底、歩きスマホやイヤホンの禁止については改善がみられたものの、まだまだ十分な改善には至っていません。なお、今年度は4月当初より中学1年生の登校経路を一部南門へと誘導したことで、より通学路の混雑が改善できました。

中学校では「道徳」の時間を中心に、身近な人権、平和教育、性教育、外国人差別問題などに学年主体で取り組みました。また、平和学習として7月に平和ミュージアム館長の吾郷先生による講演会を、震災復興学習として12月に元神戸新聞記者による講演会などを設けました。今年度、立命館中学校のボランティアサークル「VOICE」が正式に発足し、さまざまな活動が始まりました。1学期には地域の長

岡京市福祉協議会でのミーティングに参加し「みんなのポケット」事業に取り組みました。2 学期には中 2 の人権学習講演会の講師であった竹内先生に、生徒感想文を CD に録音して郵送し、先生からお礼の手紙もいただきました。12 月には、高校のボランティアサークル「RIVIO」と共同で震災復興支援の取り組み「Warm Heart」を開催し、沖縄研修旅行に向けて、首里城再建募金の活動も行いました。

中学校では、生徒の主体的な取り組みとして、5 月 25 日(土)と 26 日(日)に生徒会執行部や委員長らが集まり「リーダー研修」を行いました。また、生徒会執行部と学校生活指導部教員との話し合いの場、生徒会執行部と学校執行部との「学内懇談会」を設けるなど、民主的で建設的な話し合いの中で、責任ある意見を語る力を育成しています。

高校での今年度の特徴的な取り組みは、第 115 代生徒会執行部が「ホグワーツ制（学年の縦割り）」をあらゆる学校行事に持ち込み、学校を活性化させたことです。文化祭、体育祭などの全学的な学校行事は、これまでから生徒会や実行委員会が企画・運営を進めてきましたが、その組織運営についても 3 年生のリーダーシップが光りました。教員の評価でも「今年度の文化祭・体育祭の質がたいへん高かった」「生徒のホスピタリティが大いに発揮された文化祭であった」との声があり、文化祭の当日は 5000 名を超える来校者がありましたが、そのアンケート調査でも高い満足度があったことが確認できました。高校「RIVIO」の今年度の取り組みは、夏休みに熊本県でのボランティア活動、冬休みに福島県での研修とボランティア活動を行ったこと、第 9 回「Warm Heart」を開催したことがあげられます。Warm Heart では、これまでの活動報告に加え、今年度は地域防災を意識して「FM おとくに」の木本直樹氏を講師にお招きし、またワークショップとして長岡京市ハザードマップの制作などを行いました。

受験生やその保護者を対象に行ったオープンキャンパスや学校説明でも、モデルクラブの生徒が校内の案内役やクラブ体験の対応を担当しました。生徒の自然なおもてなしやサポートはたいへん好評で、生徒主体の学校という印象をより鮮明に映しだしてくれました。今年度新たに始まった企画として、高校硬式野球部が地域の少年野球チームに呼びかけ本校のグラウンドで開催した「野球教室」がありました。小学生対象の「野球教室」には 72 名、保護者対象の「栄養講習」には約 80 名、指導者対象の「スポーツ障害講習」には約 20 名の参加を得て、小学生だけでなく地域の方々にたいへん好評をいただきました。

生活面の課題としては、スマートフォンや SNS に関わるトラブルが増えていることがあげられます。LINE や Twitter など SNS の普及により、本校に限らず、生徒間のトラブルや問題行動を引き起こす中学生、高校生が増えている状況があり、対策を急いでいます。発覚や相談があったときは迅速に対応していますが、ネットでの拡散は瞬時に広範囲まで広がること、また取り消しがきかないという点でたいへん大きな人権問題に発展することがあります。学校では、生活指導専門相談員の方に講演をいただくなど、注意喚起を繰り返しています。

中学、高校における人格形成の歩みには、大人への成長としての頼もしさを感じる面と同時に、思春期特有の不安定さがあり、不安を感じさせることが多々あります。自立に向かう過程は一人ひとり異なりますので、支援を必要とする生徒に対しては丁寧なサポートが必要と考えます。学校では、心のケアや学習支援が必要な生徒に対して、スクールカウンセラーとソーシャルワーカーと連携して、支援を要する生徒の分析や支援を考える「チーム会議」を設けて対応しています。精神科医、教育心理学専門の大学教授、臨床心理士の先生方など 6 名のスクールカウンセラーが来室して週 4 回のカウンセリングが可能な環境を設け、学年の教員や保健部員らと適切な生徒の支援につなげています。しかし、今年度は昨年度と比べて保健室を訪れる生徒数も相談件数も激増しており、支援体制の拡充が必要となりましたので、次年度に向けては、更なるサポート体制を補強するとともに、「生徒支援センター」（仮称）の

設置、特別支援コーディネーターによる特別支援教育の推進などを行っていくことを計画しています。

(3) 教師力を向上し、生徒の挑戦心を育てる

これまでから保護者アンケートにおいて、「教員間の授業のわかりやすさに差があるのではないか」「もっと質の高い授業を目指してほしい」という指摘を多くいただいています。学校として、確かな学力、豊かな人間性を育てるために、生徒に直接関わる教員の授業力や生徒への働きかけの重要性を認識し、学年主任や教科主任のリーダーシップのもとで、授業力向上に力を注いでいるところです。

長岡京キャンパスの充実した教育環境を活かし、アクティブ・ラーニングの推進や効果的な ICT の活用、教員相互で授業を公開しよりよき授業創造に向けた授業研究を推進しています。今年度は、6月20日に「立命館における主体的・対話的で深い学びを目指した取り組み」をテーマとして全国公開授業研究会を実施し、学外の教育関係者106名の参加を得て、本校の授業実践を見ていただいた上で教育課題等についての意見交換をしました。「道徳」授業をはじめ全般としては参加者から好評をいただきましたが、生徒の主体性を引き出すには現状の学習スタイルを打破するような新しい教育手法を取り入れることが必要ではないかななどの意見もいただきました。授業力向上委員会の取り組みの一つとして、秋に公開授業月間を設けて公開授業・研究授業を約1ヶ月間実施しましたが、今年度は学年会や学科の主体性に重点をおいた取り組みとなりました。また、今年度はこれまで以上に校内の教員研修会に精力的に取り組み、救命講習、ハラスメント防止研修、公開授業研究会、小中高合同研修会、生徒理解のための校内研修会、相談案件から考える保護者対応の研修会、働き方改革に関する勉強会、保健部主催学習会（生徒事例）、保健部主催学習会（特別支援のあり方）などを重ねてきました。特に、昨年度開催できなかった小学校と中高の合同研修会を今年度開催しました。一貫教育における教科指導や生徒指導の方向性を確認し、教科毎に目指す児童・生徒像の意見交換を行うなど大変有意義であったと考えています。また、新人の先生方を中心として、一貫教育部の教育研究研修センターが主催する月1回の研修会に加え、校内教育研修会を計6回実施し、若手教員のキャリアアップを促進しました。

今年度は、入試広報活動において全教員が個別相談を担当することにも取り組みました。学校の教育理念や目指す生徒像などを共有し、これまで以上に教員一人ひとりが責任をもち協力して生徒を育てる意識を高めていくためです。中学入試では、昨年度に引き続き大きく募集人数を増やすことができ、出願者数は1000人を超える人気となりました。高校入試では、昨年度推薦入試枠に対する出願者の大幅増を受けて推薦基準を改めることで敢えて出願者を絞りましたが、ほぼ昨年度と同じ出願状況を得ることができました。出願状況で見ると、本校は京都の私学の中でも飛び抜けて高い志願者数増となりました。オープンキャンパスや学校説明会で、生徒が自分たちの経験を語る場があり、吹奏楽部による演奏やダンス部によるパフォーマンスの場があるなど、本校生徒にとっても学外の方々とつながる機会があったことは、受験生により印象を与えただけでなく、本校生徒にとっても立命館の一員であることを意識するたいへんよい機会となりました。

12月2日～14日の2週間、立命館小学校の5年生と6年生の全員が「長岡京登校」の取り組みを行いました。立命館中高キャンパスにて学校生活を体験し、中高生や中高教員と交流し、ともに学ぶ楽しさを味わいました。高校生や中学生が小学生の英語授業や算数演習のサポートを行ったり、中学生が小学生の合唱練習のサポートをしたり、小学生が高校生の課題研究発表会を見学する中では、中高生の温かい言動が見られました。数学科の教員による小学生への算数授業や社会科教員による恵解山古墳の案内解説なども行いました。

グローバル教育に関しても、本校はさまざまなチャレンジをしており、2019年度の海外派遣生徒数

は706名（短期長期含む）、本校での海外生徒受け入れは326名となりました。その中でも、SSH事業（2002年～継続中）やSGH事業（2014年～2018年）における先導的実践は、全国からも注目されています。今年度は、第4期SSH研究開発における最終年度でもあり、特に「国際共同課題研究」の実践や海外科学交流の推進（海外科学研修派遣18回、海外校受け入れ7回）、Japan Super Science Fair（JSSF）の開催（22ヶ国・地域から34校の海外校の来校は過去最高数）に取り組みました。高校3年生で行っている課題研究についても、GL・SSGを中心に英語によるレポートやポスターを作成し、英語で口頭発表をする取り組みを行いました。海外での研究発表の機会も過去最大となり、海外での研究発表をした人数は31人を数えました。また、SGH指定終了後で初めての年となった今年度は、SGH諸活動の取り組みを基本的に継続し、課題研究についてはSDGsを全面的に押し出して展開しました。その中で、GLコースを中心に立命館大学（サステナブルウィーク実行委員会）や亀岡市役所や全国レベルのフォーラムなど、外部の団体と連携して多くの企画を実施してきました。たとえば、6月には、高1GJクラスによる「ONE DAY FIELDWORK」（JICA 関西、人と防災未来センター）、第29回関西模擬国連へのGLコース全員参加、9月には、赤阪清隆氏（元広報担当国連事務次長）によるGL講演会、原田貞夫氏（大阪商業大学准教授）によるGL講演会、11月には、Rits Super Global Forum 2019（RSGF2019）の開催、12月には、全国高校生フォーラム2019でのポスター・プレゼンテーション（生徒投票賞を受賞）、東北復興防災研修などがあげられます。RSGF2019は、10ヶ国・地域の高校生約60名をはじめ総勢約170名規模で実施しました。亀岡市役所や八尾市ごみ処理施設などと連携し「プラスチックごみをいかに減らすか」をテーマに、活発な事前学習や論議を積み重ねました。RSGFの取り組みやプラスチックごみ削減の活動は、今年度5回新聞にも大きく取り上げていただきました（朝日新聞6/20・12/27、京都新聞9/25・11/15・12/24）。このように、本校の国際教育の特色は、単なる「語学研修」や「異文化理解」を目的としたものだけでなく、「海外校との共同研究」「災害復興」「環境問題」「平和」など学ぶべきテーマをもって行ってきました。また、「国際理解講座」において、留学経験や海外研修体験などを全校生徒と共有しました。

中学3年全体の取り組みとして、Rits Global Summit（RGS）を行いました。JSSFやRSGFと同様、生徒実行委員会が組織され、教職員と連携・相談しながら各取り組みの企画運営や海外生徒への対応、国内生徒への対応などをおもてなしの心を持って進めています。これらの取り組みに参加された海外校の多くが毎年、リピーターとして立命館高校への生徒派遣の機会を楽しみにされており、国や文化、言語の壁を越えて、グローバルに交流できる本校生徒のコミュニケーション力は、本校の伝統である自主・自立の精神がグローバルな学習活動の中に生かされている事例として国内外からも高く評価されています。中3生でのオーストラリア・アデレード研修（AA研修）では2週間のホームステイを通じて、語学だけでなく自立心やコミュニケーション能力、そして感謝の心などを学ぶ機会となっています。留学生や海外からの研修生の受け入れも増え、留学生のホームステイ受け入れ、国際交流プログラム、Rits Mentor（留学生のお世話をする有志組織）の育成、JSSFでのバディ育成など、多くの校内での取り組みも充実させてきました。

留学生や海外研修派遣生徒の増加などにより、各種手続きの円滑化や事前指導の充実、海外校との緊密な情報交換、海外からの訪問客に英語でもてなしできるバディ生徒の育成、受け入れ留学生との交流の推進など、グローバル教育を支える環境整備をさらに拡充するため、次年度「国際センター」（仮称）を立ち上げる計画をしています。

以上